

みんなの願いは窓口無料 すすめる会ニュース 15-12号

2015年7月7日(火)

発行：福祉医療給付制度の改善をすすめる会

<http://www.medical-post.net/fukushi/>

(長野市高田中村276-8：長野県社保協内)

長野県小児科医会「子ども医療費窓口無料化」を求める要望書提出！

県知事、健康福祉部長、県会議長、県医師会長 宛

長野県下の小児科医師でつくる長野県小児科医会は、6月11日高島会長名で「子どもの医療費窓口無料化を求める要望書」を阿部知事、小林健康福祉部長、西沢県会議長、関医師会長にそれぞれ提出しました。

この要望書提出は、すすめる会長の和田医師が、5月31日に開催された小児科医会の総会・学術研修セミナーで行った「子どもの貧困とその対策」の講演が契機となったものです。

今回提出された要望書では「私たち小児科医も日々の診療になかで、(貧困家庭で育った)子どもに接することがしばしばあります。『お金のない時は、医者に連れて行きたくてもがまんする』(中略)。子どもの健やかな成長は、小児科医のみならず県民すべての願いです。この点、長野県としても、入院の医療費助成を中学卒業までに対象を拡大するなど、積極的に取り組まれていることに、心から敬意を表するものです。しかし、現行の自動給付方式では、ある程度の現金がないと受診することができず、貧困家庭の子どもたちを医療から遠ざけることになっています。」「子

子どもの医療費窓口無料化を求める要望書

平成27年6月11日

長野県知事 阿部守一様

長野県小児科医会
会長 高島俊夫



2012年の日本の子どもの相対的貧困率が16.3%と過去最高になりました。実に6人に1人の子どもが貧困家庭に育っていることになりました。私たち小児科医も日々の診療になかで、こうした子どもに接することがしばしばあります。そして「お金のない時は、医者に連れて行きたくてもがまんする」「他県から引っ越してきたが、長野県では窓口負担があってびっくりした」といった声も耳にするようになってきました。

子どもの健やかな成長は、小児科医のみならず県民すべての願いです。この点、長野県としても、入院の医療費助成を中学卒業までに対象を拡大するなど、積極的に取り組まれていることに、心から敬意を表するものです。

しかし、現行の自動給付方式では、ある程度の現金がないと受診することができず、貧困家庭の子どもたちを医療から遠ざけることになっています。現物給付を行っていないのは昨年度までは全国で10道県でしたが、今年から石川県の多くの自治体が現物給付になり、岩手県・三重県・福井県も転換する方向が打ち出されていると聞きます。この全国的な流れの中で長野県が取り残されてはいけなとを考えます。

さらに、子どもの具合が悪い時には財布の心配をせずに受診できるように、窓口での自己負担金徴収もせず、完全窓口無料とすることは、貧困対策としても、子育て支援としても、極めて重要な、優先順位の高い課題であると考えます。

私たち長野県の小児科医は、子どもたちの健やかな成長のために、下記の点を要望いたします。

要望事項

- 1、子どもの医療費を窓口無料とすること。

子どもの具合が悪い時には財布の心配をせずに受診できるように、窓口での自己負担金徴収もせず、完全窓口無料とすることは、貧困対策としても、子育て支援としても、極めて重要な、優先順位の高い課題であると考えます」とあります。

長野県下の小児科医の職能団体が行政機関等に「要望書」を提出されたのは、始めてです。現在開会中の県議会でも紹介され、それへの対応等が問われています。(県議会での様子は、次号で)